

由初級台灣人之日語學習者的作文語彙看漢字語彙之特徵

陳毓敏

中國文化大學日本語文學系助理教授

摘要

到目前為止以中文為母語的日文學習者的漢字語彙的研究，都把焦點放在讀和聽的理解方面，使用實驗和問卷等橫性的手法的研究很多。但在寫和說等產出的方面，使用直性手法看學習者語言的人很少。筆者是為了看中文母語長期產生的漢字語彙，本研究首先分析不同的2個班級的初級學習者的一年間的作文資料，來掌握初級學習者的漢字語彙的特徵。

經由分析顯示，初級學習者作文的語彙以 Same 最多。其次是 Overlap ①和 Nothing ②。Overlap ②的數量很少。Chinese 雖然沒有出現在所有的學習者，但出現的數量不少。並針對錯誤的用法分析的結果，Same、Overlap ①都出現因中日語彙詞性不同而產生的錯誤。而 Overlap ①、Overlap ②的錯誤來自學習者無法抑制中文的意思。Different 所出現的皆為已學單字，所以學習的效果是令人期待的。Nothing ②是的數量多於 Nothing ①，但是全部皆為已學過語彙了。Chinese 的部分則是將中文單字直接當作日文使用。

關鍵詞：同形詞、輸出語彙、日中共同義、日語單獨義、中文單獨義

受理日期：2015.03.10

通過日期：2015.05.22

**Characteristic of Japanese kanji compounds to be seen in
vocabulary of the composition of the beginner's class
Taiwanese Japanese learner**

Chen Yu-Min

Department of Japanese Language and Literature, Chinese Culture
University, Assistant Professor

Abstract

The acquisition study of the Japanese learner who assumed Chinese mother tongue focused on the scene of the understanding, and there were many studies using the cross-sectional technique such as an experiment or the test until now. In a production scene, there are few things to see the intermediate language of the learner for a longitudinal section. Therefore at first the writer analyzed the one-year composition data of the beginner's class learner of two different classes to see Japanese kanji compounds that the Chinese mother tongue speaker produced for running and did that I grasped a characteristic of Japanese kanji compounds that the beginner's class Chinese mother tongue speaker produced.

As a result of having analyzed it, as for the beginner's class Chinese mother tongue speaker. "Same" was increased most. Much one is "Overlap ①" and "Nothing ②" next. "Overlap ②" was not produced very much. The production of the "Chinese" was not seen in all learners, but appeared a lot. As a result of having analyzed a type of the error, the error by the gap of the part of speech was seen in "Same", "Overlap ①" each at the daytime. In addition, an error by the Chinese original meaning was seen in "Overlap ①", "Overlap ②". Because the production of the having learned already vocabulary was often found in "Different", an effect of the learning was seen. "Nothing ②" was produced a lot from "Nothing ①", but all was having learned already vocabulary. The error of the "Chinese" had many things which submitted a Chinese word to same Japanese.

Keywords: cognates in Chinese and Japanese, the production vocabulary ,
the joint meaning in Japanese and Chinese , Japanese original
meaning , Chinese original meaning

初級台湾人日本語学習者の作文語彙に見られる 漢字語彙の特徴

陳毓敏

中国文化大学日本語文学系助理教授

要旨

これまでの中国語を母語とする日本語学習者の習得研究は、理解の場面に焦点を当てて、実験やテストなどの横断的な手法を用いる研究が多かった。それに対して、産出場で、縦断的に学習者の中間言語を見るものは少なかったようである。そこで、筆者は縦断的に中国語を母語とする日本語学習者が産出する漢字語彙を見るために、まず異なる2つのクラスの初級学習者の一年間の作文データを分析し、中国語を母語とする初級日本語学習者の産出した漢字語彙の特徴を把握することにした。

分析した結果、中国語を母語とする初級日本語学習者は、**Same**が最も多く産出された。次に多いのは**Overlap①**と**Nothing②**である。**Overlap②**はあまり産出されなかった。**Chinese**の産出はすべての学習者に見られたわけではなかったが、多く現れた。誤用のタイプを分析した結果、**Same**、**Overlap①**にそれぞれ日中で品詞のずれによる誤りが見られた。また、**Overlap①**、**Overlap②**には中国語独自義による誤りが見られた。**Different**は、既習語彙の産出がほとんどなので、学習の効果が見られた。**Nothing②**は**Nothing①**より多く産出されたが、すべてが既習語彙であった。**Chinese**の誤用は中国語単語をそのまま日本語に持ち込むものが多かった。

キーワード：同形語、産出語彙、日中共有義、日本語独自義、中国語独自義

初級台湾人日本語学習者の作文語彙に見られる 漢字語彙の特徴

陳毓敏

中国文化大学日本語文学系助理教授

1. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者の漢字語彙習得研究は、日中2言語の対照研究の分類（Same：同形同義語，Overlap：同形類義語，Different：同形異義語，Nothing：日本語にしか存在しない語）に基づいて研究を行ってきた。近年、日中2言語の共通する意味使用の一般性と意味推測可能という観点も分類に取り入れ、精緻化された枠組み（Same，Overlap①：中日で意味の共通する意味使用の一般性が一致，Overlap②，Different：中日で意味の共通する意味使用の一般性が不一致，Nothing①：漢字から意味推測が可能，Nothing②：漢字から意味推測が不可能）も応用された（陳 2009）。しかしながら、これまでの漢字語彙習得研究では、理解場面に焦点を当てて行われた研究が主なもので、産出場面における研究はまだ少ない。

そこで本研究は、異なる2つのクラスの初級台湾人日本語学習者の作文データを分析し、産出場面における初級学習者の漢字語彙の特徴を把握したい。

2. 先行研究

これまでの漢字語彙習得研究では、実験やテストなどのような横断的手法を用いるものと、学習者の作文やコーパスを利用した縦断的手法を用いるものがある。

横断的手法を用いて、中国語を母語とする日本語学習者を調査した研究は陳（2003）、加藤（2005）、小森（2008）、陳（2009a）、陳（2009b）、小森（2014）などがある。これらの研究は理解の場面に焦点を当てて、漢字語彙の理解における母語の転移、習得の難易度などを明らかにしたものである。陳（2003）は、台湾人日本語学習者 171 名を

対象とし、4タイプ（Same, Overlap, Different, Nothing）の漢字語彙のテストを作成し、難易度の比較を行った。その結果、Sameの正答率が最も高く、Differentの正答率が一番低いことがわかった。またNothingの中で、意味が推測できるものとできないものがあることが明らかになった。

加藤（2005）は、同じ4タイプの漢字語彙のL1の転移を明らかにするために、中国語を母語とする日本語学習者（57名）以外に、英語母語話者（45名）及び日本語母語話者（21名）も対象とし、文の正誤テストを行った。その結果、Sameは、母語からの正の転移を受けするため、未知語でも意味が推測できる。Differentは、初中級では母語の負の転移が強い。また、Nothingは、転移が起こりやすいものと起こりにくいものがある。Overlapは、中国語母語話者の上級及び、英語母語話者でも、多義的語義を持つため、正確に習得ができないとされている。

小森（2008）は、中国語母語話者（64名）を被験者とし、実験的な手法を用いて、日中共有義のほかに、中国語独自義があるOverlap及び、Differentを対象語とし、文正誤判断課題を行った。その結果、OverlapよりDifferentのほうが判断が早い。日中共有義のあるOverlapのほうが困難であることが明らかになった。

陳（2009b）は、陳（2009a）の精緻化した枠組みを援用し、異なる日本語習熟度と異なる学習環境（JSLとJFL）の台湾人日本語学習者を対象とし、母語訳テストと文の正誤判断テストを用いて、漢字語彙の習得難易度を検証した。その結果、異なる日本語習熟度において、上級日本語学習者は、難易度の差はないが、初中級の場合、Overlap②、Nothing②、Differentが困難であることがわかった。異なる学習環境において、Overlap②、Nothing②、Differentの3種類では、JSL日本語学習者のほうが習得が進み、その他のSame、Nothing①、Overlap①の習得では、JSLとJFL日本語学習者の差はないことが明らかになった。つまり、日中で共有義があるかないか（Overlap）、漢字から意味の推測ができるどうか（Nothing）、また

学習効果 (Different) が中国語を母語とする日本語学習者に影響していることが示唆される。

小森 (2014) は、漢字語彙の習得に及ぼす母語の影響を調べるために、中国語母語話者 (238 名) を対象とし、Nothing、日本語独自義がある Overlap 及び、中国語独自義がある Overlap、そして Different の 3 種類の漢字語彙を対象語とし、多肢選択形式のテストを行った。その結果、Nothing 及び、日本語独自義のある Overlap の習得は総合的な語彙知識の増加につれ、進むことがわかった。中国語独自義がある Overlap は、語彙知識が豊富な学習者でも中国語の独自義の抑制に気づくことが難しいとされる。

縦断的手法を用いる研究は、管見の限り、陳 (2006)、陳 (2011) しかない。陳 (2006) は LARP at SCU (Language Acquisition Research Project at Soochow University) のデータを利用し、1 名の学習者の 3 年間の Same、Overlap、Different、Nothing、また中国語にしかない漢字語彙 (Chinese) の習得状況を調査した。その結果、初期から後期段階まで、Same の使用数が最も多く、次に多いのは Nothing で、その次は Different である。Chinese は初期段階に 1 例しか現れなかった。また陳は 2011 年、再度 LARP at SCU のデータを用いて、12 名の学習者まで増やし、分析した結果、1 名の事例研究と同じ結果を得て、Same は最も多く、Nothing は 2 位で、Different は 3 位であることがわかった。しかしながら、Chinese の使用は多く見られるようになったし、日本語習熟度が上がるにつれても、減少していないことが明らかになった。

張 (2009) は、2 年生の中国語母語話者 (26 名) の作文データを用いて、中国語語彙からの転移を分析した。縦断的な手法を用いる研究ではないが、初級学習者の母語の転移を検証するものである。その結果、中国語語彙からの転移は、中国語にしかない語彙の完全な転移、中国語の単語の意味の転移、中国語の単語の品詞性の転移、その他の漢字語彙の転移の 4 種類をまとめた。張 (2009) によると、中国語の単語の意味或いは品詞性の転移に関して、中国語において

基本語彙である性格が影響しているとされている。

上記のように、中国語を母語とする日本語学習者の漢字語彙習得研究では、横断的手法を用いるものが圧倒的に多く、縦断的な手法を用いるものはまだ少ない。また、横断的手法を用いる研究から、**Same** は最も容易で、母語から正の転移を及ぼしていることがわかった。**Overlap** は、日中で共有義があるかないかということが習得に大きく関わるということが明らかになった。さらに日本語独自義、中国語独自義の影響も無視してはいけないと示唆された。**Different** は、日中で同形異義であるが、学習効果に任せられる。**Nothing** は漢字から意味が推測できるかどうかに関わるということがわかった。縦断的手法を用いる研究から、**Same** の産出が最も多く、**Different** が少ないことが明らかになった。また中国語にしかない **Chinese** の産出は、日本語習熟度が上がっても減少しないことが明らかになった。

3. 研究課題

先行研究の知見によって、**Same**、**Overlap**、**Different**、**Nothing** の母語転移及び習得難易度がある程度明らかになった。しかしながら、理解の場面に設定し、横断的な手法を用いる研究がほとんどである。産出場面、また長期的に学習者の習得状況を見るものは少ない。横断的手法を用いる研究から、**Overlap** の習得において、日中での共有義、日本語独自義及び中国語独自義が大きく関わるということがわかったが、十分に研究が行われてこなかった。また日中での共有義、日本語独自義、中国語独自義も複数持つ可能性があるため、使用頻度の観点から追究する研究が必要である。**Nothing** に関して、漢字から意味推測が可能な語彙と不可能な語彙に分けられるが、横断的手法の研究では、漢字から意味推測が可能な語彙は不可能な語彙より習得しやすい結果が出たが、作文のデータを用いて縦断的に見る研究では、比較を行っていない。**Chinese** は、中国語母語話者の産出場面にしか現れないものなので、現れる要因及び語彙の性格を分析

する必要がある。

以上述べたように、中国語を母語とする日本語学習者の漢字語彙の習得研究はまだ多くの課題が残されている。そこで、本研究は、まず中国語を母語とする初級日本語学習者の産出語彙に限定し、産出した漢字語彙の量的及び質的分析を通して、漢字語彙の特徴を把握することにしたい。具体的な課題として、(1) Same、Overlap、Different、Nothing、Chineseの産出量は陳(2011)の初期と同じ傾向なのか。(2) 産出語彙の質的分析によって、産出した Same、Overlap、Different、Nothing、Chineseの誤用例を挙げて、母語の転移、誤った原因などを究明する。

4. 調査概要

4.1 用いる枠組み

これまでの研究では、文化庁(1978)の枠組みを用いて調査されるものが多かった。しかし、文化庁(1978)の枠組みでは、日中の対応関係しか考慮されなかった。習得に影響する意味の一般性及び漢字からの意味推測の可能性が考慮に入れられていなかった(陳2009a)。そのため、本研究では、文化庁(1978)の枠組みを精緻化した陳(2009a)の枠組みを援用し、漢字語彙の産出状況を見ることにした。陳(2009a)の枠組みは、表1に示す。表1が示すように、漢字語彙の意味使用の一般性を考慮することによって、Overlapは日中共有義があり、使用の一般性も一致するもの(Overlap②)と、日中共有義があるが、使用の一般性が不一致するもの(Overlap①)の2種類に分けられる。また、Nothingは、漢字から語彙の意味が推測できるもの(Nothing①)とできないもの(Nothing②)に分けられる。また本研究では、中国語母語話者の産出語彙を見るために、中国語にしかない語彙(Chinese)の産出も考慮に入れなければならない。そのため陳(2009a)の6種類以外に、Chineseを付け加える。

表 1 陳 (2009a) の枠組み

漢字語種類	中国語	日本語	共通の意味の使 用の一般性の 一致／不一致	漢字から の意味 推測	例	文化庁／ 三浦との 対応
Same	$\boxed{m1}$ (m2)	$\boxed{m1}$ (m2)	一致		理想 露骨	Same Same
Overlap①	$\boxed{m1}$ φ (m3)	$\boxed{m1}$ (m2) φ	一致		解決 現金 単位	Overlap I Overlap II Overlap III
Overlap②	$\boxed{m1}$ (m2)	(m1) $\boxed{m2}$	不一致		入手 上品 下手	Overlap I Overlap II Overlap III
Different	$\boxed{m1}$ φ	φ $\boxed{m2}$	不一致		学長 勉強	Different Different
Nothing①	φ	$\boxed{m1}$ (m2)		可能	既婚	Nothing
Nothing②	φ	$\boxed{m1}$ (m2)		困難	我慢	Nothing

注 1：四角で囲ったものは使用一般性の高い意味。m は意味。複数の場合は m1, m2 と示す。同じ番号は同じ意味を示す。

注 2：() 内の意味は中国語，日本語のどちらかが欠落する場合がある。

4.2 調査に使用するデータ

調査に使用するデータは、筆者が担当していた 2 つのクラスの 2 年生が 1 年間に書いた作文である（以降は初級 1 と初級 2 とする）。2 つのクラスともに筆者が担当したため、同じ教授方法を用いたが、学生数が異なり、それぞれ 30 名と 35 名である。最終的に分析のデータとして用いたのは 17 名と 15 名である。その理由は、まず 1 年間の作文が揃わなければならない。また、学生の日本語能力が 2 年生といっても、すでに日本語能力試験 N2 を取得済みの人もいる。そのため、大学に入ってから日本語を学び始めた学生のものに限定した。すなわち、1 年間の作文が揃い、大学から日本語を学び始めた学生の作文だけを分析対象とした。また、作文の字数に関して、授業では、原稿用紙は教師側から用意し、1 人に 600 字の用紙 1 枚を配り、400 字から 600 字までの制限を課した。

2つのクラスの12回の作文テーマは次のようである。異なるテーマは網掛けで表示する。

表2 1年間の作文テーマ

初級 1		初級 2	
①自己紹介	⑦2011年を迎えて	①自己紹介	⑦外国人に自国の習慣を紹介する
②私の趣味	⑧外国人に自国の習慣を紹介する	②私の趣味	⑧感謝の手紙
③私の家族	⑨感謝の手紙	③私の家族	⑨身近な出来事を批判する
④私のふるさと	⑩身近な出来事を批判する	④私のふるさと	⑩携帯電話は必要か不必要か
⑤今まで一番～こと	⑪携帯電話は必要か不必要か	⑤私の好きな番組	⑪物語を語ろう
⑥私の好きな番組	⑫物語を語ろう	⑥2012年を迎えて	⑫ニュースを要約して感想を書こう

注：作文のテーマは『楽しい日本語作文教室』I及び『作文教室—身近なトピック10』などを参考に選んだ。

4.3 分析方法

漢字語彙の正用と誤用の産出を量的及び質的に分析するために、漢字語彙の分類は筆者と中国語母語話者2名で判断した。正用と誤用の判定は筆者と日本語母語話者1名で判断した。正用と誤用の判定例は次に示す。

表3 正用と誤用の判断例

Same	正用例	好きな <u>音楽</u> がロックです。
	誤用例	私は毎日 <u>充実</u> な生活をおくっています。(充実した)
Overlap ①	正用例	<u>将来</u> 日本へ留学したいです。
	誤用例	学校の生活も <u>習慣</u> しました。(慣れました)
Overlap ②	正用例	日本のドラマが <u>一番</u> 好きです。
	誤用例	自然環境のことを <u>遠慮</u> しません。(考慮)
Different	正用例	私の <u>趣味</u> は日本語の歌を歌うことです。
	誤用例	<u>事情</u> があつて家に帰った。(用事)

Nothing ①	正用例	多くの恋人は <u>夕日</u> を見ることが好きです。
	誤用例	<u>暑休み</u> の時、みんなと一緒に学校で勉強しました。 (夏休み)
Nothing ②	正用例	母は晩御飯の <u>支度</u> をします。
	誤用例	携帯は <u>余分</u> です。(余計なもの)
Chinese	誤用例	この子は老人は <u>騙子</u> と発見した。(詐欺師)

5. 結果と考察

5.1 産出語彙の量的分析

2つの初級クラスの作文の産出語彙を分析した結果を図1と図2に示す。

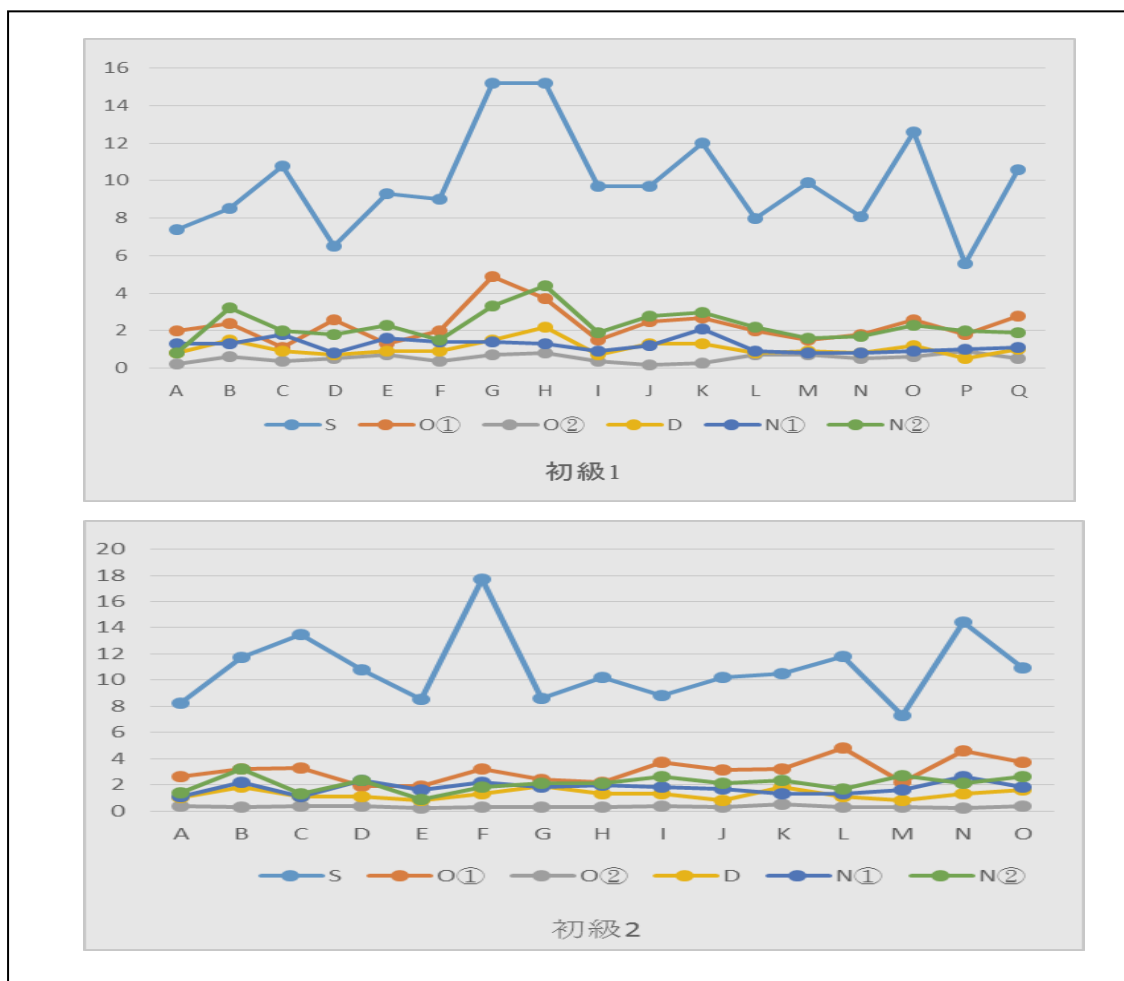


図1 S、O①、O②、D、N①、N②の正用平均産出量

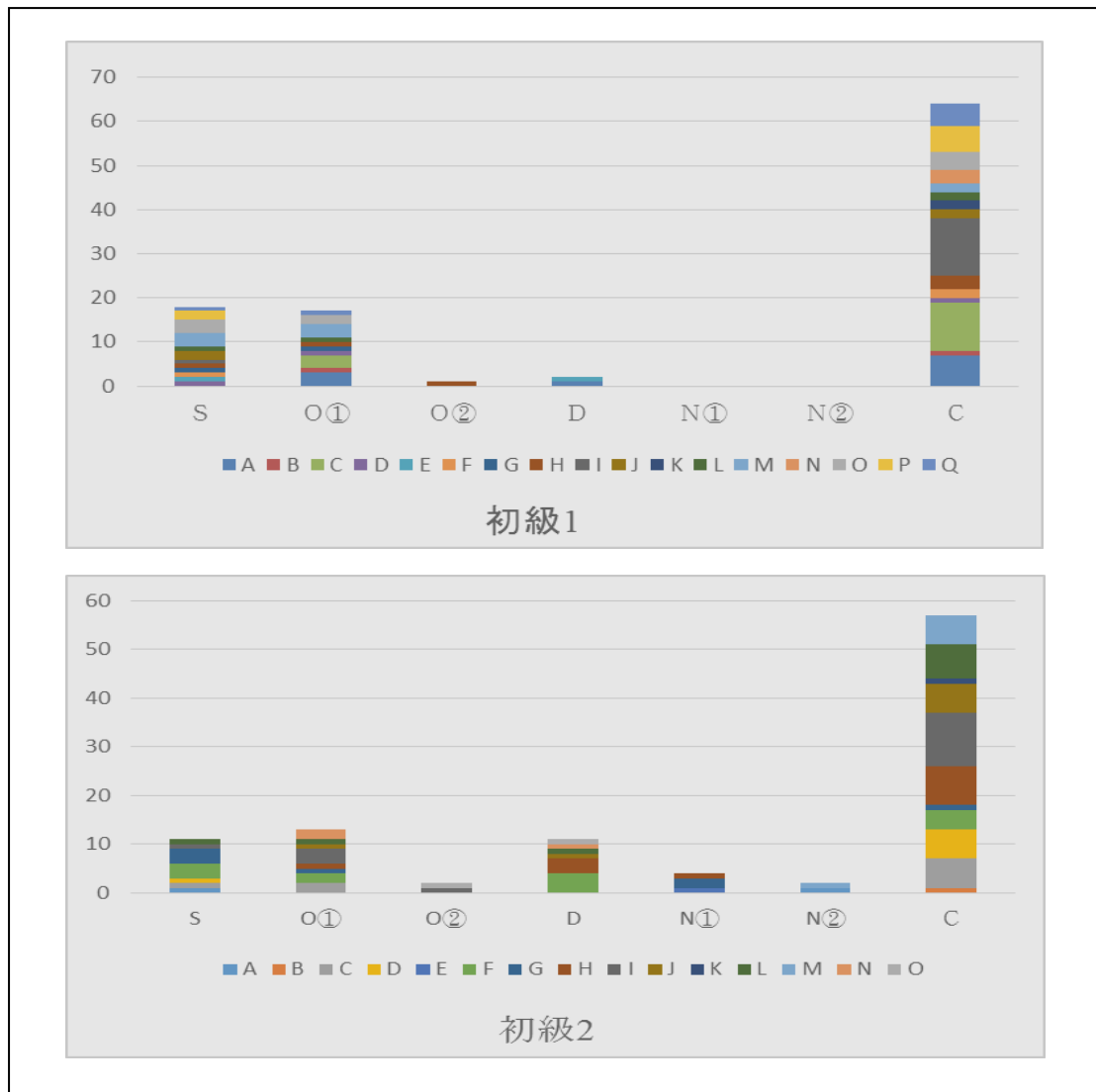


図2 S、O①、O②、D、N①、N②の誤用産出量

図1の横軸は2つのクラスの学習者（初級1：A～Q，初級2：A～O）のSame、Overlap①、Overlap②、Different、Nothing①、Nothing②の正用平均産出量を表している。縦軸は個数を示している。図2の横軸は、2つのクラスの学習者の6種類の漢字語彙及びChineseの誤用産出量で、縦軸は同じ個数を示している。図1からわかるように、初級1でも、初級2でも、Sameはその他の種類の漢字語彙より多く産出された。初級1では、平均的に最も多く産出されたのは15.2個（G，H）、一番少なかったのは5.6個（P）である。初級2では、最も多く産出されたのは17.7個（F）で、一番少なかったのは

7.3 個 (M) である。

Same 以外の漢字語彙の平均産出量は少ないが、Overlap①と Nothing②は次に多く産出されることが図 1 からわかる。最も産出が少なかったのは Overlap②である。図 2 はその 6 種類の漢字語彙の誤用産出量と中国語にしかない語彙 (Chinese) を示している。図 2 が示したように、初級 1 でも、初級 2 でも Chinese の産出が最も多い。しかし、初級 1 では、Same、Overlap①の誤用産出も多くの学習者から見られる。また初級 2 では、Same、Overlap①、Different の誤用産出が少なくない。

本研究の調査結果は陳 (2011) の初期段階の結果 (Same>Nothing>Overlap>Different>Chinese) と部分的に一致することとなった。Same は最も多くされ、Nothing と Overlap は次に多いことである。しかし Overlap でも、日中で共有義があり、意味使用の一般性が一致するもの (Overlap①) と不一致するもの (Overlap②) がある。本研究の結果から、学習者はあまり Overlap②を産出していないことがわかる。Nothing では、両方産出しているように見える。陳 (2011) と大きく異なるのは、学習者が多くの Chinese を産出していることである。このことから、本研究の学習者においては、母語の影響が大きいことが示されている。

5.2 産出語彙の質的分析

今回の調査結果から、Same の中で、日本語能力試験の語彙の 1 級に相当する語彙と級外の語彙、(初級 1：画像、堅持、眼病など。初級 2：通称、星空、見聞など) が多く見られるため、中国語母語の初級学習者にとって、漢字語彙の産出は級数と関係なく、表現したい意味に合っていればどんどん使う傾向はあるが、このような語彙をよく確認しないで使ってしまうと Chinese となる可能性もある。つまり、初級段階の学習者は、実は Same か Chinese かまったく理解していないまま使用していることが今回の調査から明らかになった。今回の調査によって Same の誤用パターンには次の 2 種類があることも判明した。

- (1) *自分の権力を放棄しました。(権利)(初級 2, F)
 (2) *私は毎日充実な生活をおくっています。(充実した)(初級 1, I)

Same の誤用は、(1)がほとんどである。(1)の誤用例は、「権力」という Same が使われるが、学習者は土地の「権利」、財産の「権利」を使いたがったので、「権利」のほうが正しい。このように、Same でも、異なる語彙を用いてしまうこともある。(2)の誤用は少ないが、日中での品詞のずれによる間違いである。「充実」という漢字語彙は、日本語では、名詞とサ変動詞となるが、中国語では、形容詞と動詞となる。学習者は中国語の品詞 (< 充實的生活 >) をそのまま認識したため、「充実な生活」と書いてしまったわけである。日中で同形語の品詞のずれに関して、石・王 (1988)、中川 (1995)、陳 (2002)、游 (2013) などがある。母語の語彙の意味のみでなく、品詞も影響を及ぼしている。また張 (2009) は、品詞性の転移と呼ぶ。今回の調査から、わずかであるが、このような誤用例も観察されたため、Same の日中での品詞のずれも今後注意したい。

Overlap①とは、日中で共有義を持ち、使用の一般性も高いものなので、初級 1 と初級 2 の産出語彙はほとんど日中共有義である。しかし、Overlap①は、日中共有義以外に、中国語独自義を持ち、使用の一般性も高いものがあるので、間違いやすい。Overlap①の誤用は 2 種類ある。

- (1) ①*固定の地方でトイレする。(場所)(初級 1, C)
 ②*服の素質を研究している。(生地)(初級 2, I)
 (2) *学校の生活も習慣しました。(慣れました)(初級 2, F)

(1) の誤用は、複数の意味が引き起こす問題である。①の「地方」は、日本語では、「関東地方」のような国内の一部の土地と、「地方へ転勤する」という田舎の意味がある。中国語では、日本語にある「地方へ転勤する」のような田舎という意味があるが、日本語にな

い「場所」という意味もあるため、学習者は中国語の独自義の「場所」という意味を使用してしまったわけである。また②の「素質」は、中国語では、日本語にある「芸術家の素質」という「生まれつき持っているもの」という意味があるが、日本語にない「材料や原料の品質」という意味もあるため、学習者が間違えるわけである。Overlap①の誤用例から、中国語の独自義は、理解の場面でも、産出の場面でも漢字語彙の習得を妨げることがわかった。

(2) の「習慣」は、中国語では、<養成早起的習慣>（「早起きの習慣をつける」）（名詞）及び<習慣學校的生活了>（「学校の生活に慣れた」）（動詞）という2つの意味がある。日本語では、名詞の意味しか使わないため、(2) のような誤用が現れる。

Overlap②について、初級1と初級2ともに、既習語彙の「一番」、「先生」などのような漢字語彙しか産出されなかった。誤用は僅かであるが、2例挙げる。

- (1) *これは携帯の問題ではなく、使いすぎの結局です。(初級1, H)
- (2) *自然環境のことを遠慮しません。(初級2, I)

(1) の「結局」は、中国語では<結局如何?>という「結末」の意味しか使わないが、日本語では中国語にある「結局のところ」という意味もありながら、ほとんど副詞としての「努力したが結局失敗した」という意味が一般的に使用される。(2) の「遠慮」は、中国語では<人有遠慮・必有近憂>という「深い考え」という意味しか使わないが、日本語では、この意味を使わず、「招待を遠慮する」や、「この場を遠慮せよ」のような行動を控えめにする、また辞退するという意味で使う。このように Overlap②は日中共有義があるものの、一般的に使われていないため、日本語の独自義の学習が必要である。また、中国語独自義が使われていないという認識も必要である。

Different は、ほとんど既習語彙しか産出されなかった(例:勉強、

趣味、自分など)。初級 1 も初級 2 も平均 1 人 1 個しか見られなかった (図 1)。誤用に関して、初級 1 では、1 例しか見られなかったが、初級 2 ではいくつか見られた。例を次に挙げる。

(1) 週日にはよく遊園地や海や山などに連れて行ってくれました。

(初級 1, E)

(2) 猿も困った模様を模倣しました。(初級 2, F)

(1) の「週日」は日本語ではウィークデーという意味であるが、中国語では日曜日を指している。(2) の「模様」の日本語では、「美しい模様」(形や紋様)、「事件の模様を伝える」(経過)、「電車が遅れる模様」(状況) という意味であるが、中国語では、「容貌」、「様子」である。学習者は日中で意味が異なることに気付かず、中国語の意味をそのまま日本語に持ち込むことが伺える。理解場面に焦点を当てた研究 (陳 2009b, 小森 2008) から、この種類の漢字語彙は学習することによって、難易度が下がることが明らかになった。今回の産出語彙の調査から、既習語彙の産出がほとんどで、誤用も少ないことから、Different の学習効果が期待できる。

Nothing①と Nothing②に関して、初級 1 でも初級 2 でも、Nothing②のほうが多く産出された (図 1)。また産出した語彙を調べたところ、既習語彙の産出がほとんどである (例: 一緒、大変、心配、大切など)。Nothing①と Nothing②の誤用に関して、初級 1 では観察されなかったが、初級 2 では観察された。Nothing①の誤用は「夏休み」を「昼休み」と書いた漢字の誤りである (初級 2, E, G, H)。Nothing②の誤用は「携帯は余分です」(余計なもの) である (初級 2, M)。

Chinese に関して、改めて図 3 に示す。図 3 の横軸は学習者を示す。縦軸は Chinese の産出個数である。図 3 からわかるように、初級 1 では、E, G を除いて、すべての学習者が産出した。特に A, C, I の 3 名の学習者のほうが多く見られた。初級 2 も、A, E, N, O を除いて、すべての学習者に見られた。H, I の 2 名の学習者が特に多く、C, D, K, M もそれぞれ 6 個くらい産出している。Chinese

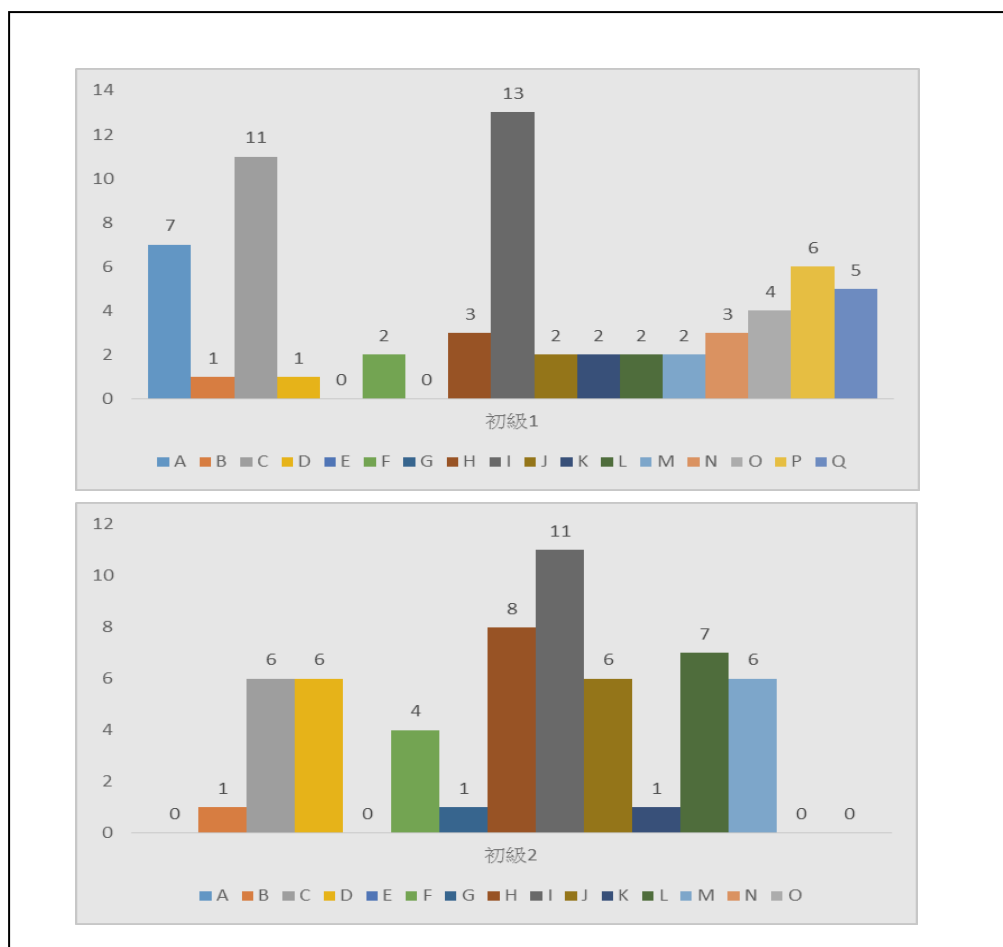


図3 Cの産出

の誤用は2種類にまとめることができる。次に例を挙げて説明する。

- (1) * 废水が工廠から排出された。(初級2, I)
- (2) * チッケとは高いですが值得と思いました。(初級1, I)

(1)は、「工場」が正しいが、学習者が文字を書き間違ったのか、或いは中国語の単語をそのまま持ち込んだのか確認が必要である。

(2)は日本語にない中国語の単語をそのまま書いてしまう誤用である。学習者がここに書きたかったのは「価値がある」という意味だが、日本語がわからなくて、中国語の単語をそのまま書いたと思う。他にも「詐欺師」を<騙子>、「許す」を<原諒>、「友達」を<朋友>、「寂しい」を<寂寞>など多くある。しかし、図3からわかるように、Chineseはすべての学習者に見られなかった。このことから、初級学習者でも漢字語彙を使用する際、注意を払いながら使用

していると考えられる。

6. まとめ

本研究では、異なる2つのクラスの初級台湾人日本語学習者の作文語彙を量的及び質的に、7種類（Same、Overlap①、Overlap②、Different、Nothing①、Nothing②、Chinese）の漢字語彙の産出特徴を分析した。その結果は次の7点にまとめることができる。

- (1) 漢字語彙の産出量の傾向は、陳（2011）の初期段階と部分的に一致するものとなった。しかし、本研究では Chinese が多く産出したことという点が異なっている。
- (2) Same は、日本語能力試験の1級及び級外の語彙でも多く産出される。日中での品詞のずれも誤用の一つの要因となる。
- (3) Overlap①は、日中共有義の産出がほとんどである。誤用の原因は中国語独自義の抑制ができないことと、日中での品詞のずれである。
- (4) Overlap②の産出が少ない。誤用の原因は日中共有義が一般的に使われていないこと、日本語の独自義の学習不足、中国語独自義の抑制が困難であることである。
- (5) Different は、既習語彙が中心に産出され、誤用も少ないので、学習効果が期待できる。
- (6) Nothing②の産出量が Nothing①より多い。ほとんど既習語彙のみ産出される。誤用があってもまれなものである。
- (7) Chinese は、中国語の単語をそのまま日本語に書いてしまったものがほとんどである。しかしすべての学習者に出現するものではないため、注意を払って漢字語彙を使用する学習者もいる。

本研究の結果から、ある程度、中国語を母語とする初級日本語学習者の産出した漢字語彙の特徴が把握できた。この結果は、日本語教育の作文教育に応用できると考えられる。まず、Same に関して、言葉が正しく使えても、日中での品詞がずれているものもあるので、

注意しなければならない。また **Overlap** に関して、日中で共有ではない日本語の独自義が使えない可能性が高く、中国語の独自義をそのまま作文に持ち込む可能性があるため、対策として、そのような誤用を授業で取り上げて、学習者にしっかり区別させる方法が必要である。そして、中国語を母語とする初級日本語学習者の作文で最もよく現れる **Chinese** について、多くの言葉は日本語の辞書に掲載されるが、実際に日本語では使用頻度が低いものである。筆者の教授方法としては、すべての **Chinese** の誤用を一覧表にして、学習者に正しい日本語に直させる作業を行うようにしている。

今後の課題として、今回把握できた中国語を母語とする初級日本語学習者の作文語彙の特徴を利用し、作文コーパスを用いて、中級、上級の作文語彙の変化を見ていきたいと考えている。

参考文献

- 石堅・王健康（1983）「日中同形語における文法的ズレ」『日本語・中国語対応表現用例集』5，日本語と中国語対照研究会編，55-82.
- 加藤稔人（2005）「中国語母語話者による日本語の漢字語習得－他言語話者との習得過程の違い－」『日本語教育』125，日本語教育学会，96-105.
- 小森和子（2008）「中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理－同形類義語と同形異義語を対象に－」『日本語科学』23，国立国語研究所，81-94.
- 小森和子（2014）「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」『中国語話者のための日本語教育研究』5，中国語話者のための日本語教育研究会編，1-15.
- 陳毓敏（2002）「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得－同形同義語の文法的ズレに焦点を当てて－」『日本語教育学会秋季大会予稿集』，日本語教育学会，63-68
- 陳毓敏（2003）「中国語を母語とする日本語学習者の漢語習得について－同義語・類義語・異義語・欠落語の4タイプの検討－」『日本

- 語教育学会秋季大会予稿集』, 日本語教育学会, 174-179.
- 陳毓敏 (2009a) 「中国語母語学習者の日本語漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案－意味使用一般性と意味推測可能性を考慮して－」『日本語科学』25, 国立国語研究所, 105-117.
- 陳毓敏 (2009b) 『中国語母語の日本語学習者における漢字語の習得研究』お茶の水女子大学 博士論文
- 陳淑娟 (2006) 「作文における漢字語語彙の習得についての考察－LARP at SCU のデータに基づく事例研究－」『台湾日本語文学報』22, 台湾日本語文学会, 379-404.
- 陳淑娟 (2011) 「作文における「中日対応関係語彙」の習得についての考察－LARP at SCU のコーパスの漢字語彙の使用から」『東吳外語學報』33, 東吳大学, 25-45.
- 中川正之 (1995) 「単語の日中対照」『日本語学』5月号, 明治書院, 64-71
- 張麟声 (2009) 「作文語彙に見られる母語の転移－中国話者による漢語語彙の転移を中心に－」『日本語教育』140, 日本語教育学会, 59-69.
- 游能睿 (2013) 「日本語初級語彙における同形語の意味及び品詞による分類－二字日中同形語を中心に－」『台湾日語教育學報』20, 台湾日語教育学会, 122-151

付録

語彙の誤用一覧表

<p>包丁 (コックさん)、表示 (表す)、結局 (結果)、週日 (日曜日)、 図画 (絵)、発現 (発見)、一天 (一日)、堅持 (やりとおす)、 結実 (実る)、操縦 (コントロール)、地方 (場所)、読書 (本を読む)、 問題 (トラブル)、賭場 (カジノ)、辛苦 (大変)、温暖 (暖かい)、 聴従 (従う)、残忍 (残酷)、流浪 (野良)、電費 (電気代)、 台頭 (頭を挙げる)、感情 (仲)、和解 (仲直り)、問題 (質問)、</p>

作業（宿題）、堅強（しっかりしている）、関心（気にかける）、充実な（充実した）回憶（思い出）、成就（成し遂げる）、定居（定住）、值得（価値がある）、主管（管理職）、家人（家族）、寂寞（寂しい）、孝順（孝行）、重建（立て直す）、好事（良いこと）、回報（報い）、抱怨（文句）、親情（愛情）、効用（用途）、不断（引き続き）、工具（道具）、溝通（コミュニケーション）、事業（ビジネス）、分社（支社）、功能（機能）、了解（わかる）、煩惱（悩み）、故事（ストーリー）、愉快（楽しい）、友誼（友情）、愛情（恋愛）、輻射（放射線）、道理（筋道）、朋友（友達）、体諒（理解）、手芸（腕前）、出差（出張）、婦女（婦人）、了解（理解）、木工（大工）、每人（一人一人）、歌曲（メロディー）、西方（西）、偶像（アイドル）、表演（演技）、迷路（道に迷う）、一百（百）、絶対（ぜったい）、靈感（アイデア）、授課（授業）、島嶼（島）、不同（違う）、任務（仕事）、処理（担当）、負担（引き受ける）、煙霧（煙）、料想（考える）、進行（やる）、騙子（詐欺）、暑休（夏休）、普遍（一般的）、習慣（慣れる）、表現（成績）、模様（様子）、絵画（絵）、控制（コントロール）、訴求（訴え）、相関（関係）、話題（話）、要所（場所）、風格（スタイル）、融和（和やか）、寛広（広い）、名地（名勝）、小吃（軽食、食べ物）、掌握（握る）、装扮（装う、服を着る）、素質（材料や原料）、感情（気持ち）、経歴（経験）、遠慮（深く考える）、発展する（発展させる）、単字（単語）、凶手（犯人）、無聊（つまらない）、更正（直しす）、介紹（紹介）、語言（言葉）、產生（生み出す）、関心（関心を持つ）、副修（サブ科目）、時数（時間）、老街（古い町）、説法（言い方）、耐性（忍耐力）、事物（物事）、花季（花見の季節）、工廠（工場）、藍色（ブルー）、玩具（おもちゃ）、保留（保存）、余分（余計）、家管（専業主婦）、外表（外見）、需要（必要）、要事（用事）、車門（車のドア）、差別（差異）、交際（交流）、和平（平和）

注：（ ）は正しい表現を示している。